

令和7年

陸前高田市二十歳のつどい

二十歳の皆さん

おめでとーございます

1月12日(日)、奇跡の一本松ホールを会場に令和7年陸前高田市二十歳のつどいが開催されました。本年の対象者は平成16年4月2日から17年4月1日までに生まれた160人。当日は振袖や羽織袴、スーツなどに身を包んだ126人(男64人、女62人)が出席し、級友との再開に笑顔を弾けさせながら、二十歳としての凛々しい姿を披露しました。

式典では、佐々木市長が「皆さんの多くは、小学校に入学する直前の3月に東日本大震災に遭遇し、言葉では言い表すことのできない悲しみや苦しみを経験しながら、その困難を乗り越えてきた。これまで歩んできた20年が決して平坦な道ではなかった分、困難を克服する力を持っていると信じている。皆さんこそが陸前高田の、そして

日本の将来を担う人材だ」と、エールを送りました。

式典後には、二十歳のつどい実行委員会(岡田悠太委員長)が中心となり記念行事を実施。中学時代の思い出や今後の意気込みを語るインタビュー、恩師の先生方がメッセージを送るビデオレターの上映、クラスごとの記念撮影などが行われ、会場は大きな盛り上がりを見せました。

また、県建設業協会大船渡支部青年部会が、出席者へのタイムカプセルの返却も実施。これは、小学6年時に制作したタイムカプセルを同部会が預かり、二十歳のつどいに併せて返却しているもので、出席した皆さんは当時の思い出を懐かしみながら、大人としての誓いを新たにしていました。

二十歳の誓い



おか ぶち そう た さん
(高田東中学校)

私たちは二十歳という人生の節目、そして大人としての門出を迎えることができました。こうして無事にこの日を迎えることができたのも、たくさんの愛情を注いで育ててくれた家族や、お世話になった先生方、温かく見守ってくれた地域の皆さまなどの支えがあつてこそものだと感じています。

現在、私は陸前高田市を離れ、大学で経済学を学んでいます。高校時代にニュースなどを目にする中で、年金や税金、社会の体制に興味を持ち、詳しく理解してみたいと考えたからです。将来は、大学で得た知識や技術を生かし、陸前高田に戻って地域のさらなる発展に貢献したいと思っています。

二十歳を迎えた私たちですが、社会人としてはまだまだ未熟です。名実ともに大人として認められるように、多くの方々への感謝の気持ちを忘れず、自分を磨きながら、これからの人生を力強く歩んでいきたいです。



さ とう れ な さん
(高田東中学校)

今日この門出の日を迎えることができたのは、一番近くで支え続けてくれた両親や、共に学び成長した友人、そして暖かく見守ってくれた地域の方々など、たくさんの存在のおかげであると強く感じます。

私は現在、陸前高田市を離れ、大学で地域教育文化について学んでいます。その背景にあるのは、家族だけでなく、「地域の人」に育てていただいたという思いです。

東日本大震災の際、みんなが悲しさや我慢を抱えながらもお互いに励まし支え合うことができたのは、地域の強いつながりによるものだと考えます。

しかし、コロナ禍の影響もあり、日本全体として地域のつながり、特に地域と若者とのつながりが希薄になっていくと感じます。だからこそ震災で得た「地域とのつながりの大切さ」という経験を伝え、地域と若者をつなげる方法を学び、そしていつかこの陸前高田に戻り、その学びを生かして貢献していきたいです。

